

「花盛り」

今年の桜は、足早に散ってしまいました。いま満開なのはハナミズキでしょうか、特に白花のハナミズキの雪のような白さが目につきます。

林の中を歩いていて、それほどは目立たないけれど、やはり花盛りの木を見つけました。ちいさな、ちいさな花。

でも、えんじ色がなんともシックです。白いおしべがポイントになっていますね。



これはアオキの雄花です、この木は雄花しかない、雄の木なのでした。雌花は… 少し離れたところに雌の木がありました。こちらには白いぼつちはないけれど、真ん中のめしべの緑がこれまた素敵！ 冬に赤いつやつやした実をつけるアオキ、あんな大きな実をつけるのに、花がこんなに小さいとは意外でした。

少しですが、木には去年できた実がまだついています。鳥に食べられなかったのでしょうか？ きつと鳥は、この実はおいしくないぞ、ということがわかっていたのだと思います。冬の厳しい風や雪で落とさ

れなかったのでしょうか？ この実は、そう簡単に落ちないようになっているようです。なぜなら、この中にはタマバエの幼虫が入っていて、実全体が幼虫のゆりかごになっているからです。初夏に、虫

が成虫になって飛び出すまで、実が木についていないと困りますね。そういえば、ちょっと緑がかったり、いびつな形をしている実もあ



りました。

それにしても、成虫になるまで実を木に残しておく…そんな都合の良いプログラムを、いったい誰が作ったのでしょうか？

(小川)